

提出日 2017年 12月 22日

2017年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ 「デンサー節の認知度と継承に関する研究」

氏名：池宮愛麻 上原真菜 平良梨乃 高山未来

所属学部学科：人文学部 こども文化学科

I. 初めに

西表島の上原地区発祥の「デンサー節」という民謡があるが、その民謡が沖縄県各地に広まり続け、各地でオリジナルを加えた「デンサー節」が普及している。それにより「デンサー節」が誕生した地が上原地区であるということが疑問視され始めている。そのため、私たちは「デンサー節」の発祥の地が上原地区であるということを調査したいと思い今回の研究を行った。

II. 研究の目的、動機

西表島の上原地区発祥の民謡「デンサー節」について、グループで話をしていると、このグループ内での認知度に差があることに気付いた。それをきっかけに八重山地方と沖縄本島のデンサー節の認知度について調べたいと思った。

また、このデンサー節は「教訓歌」であることが分かり、これまでどのように継承されてきたのか調べたいと思った。

III. 研究方法、地域、期間

研究方法…インターネットや本などで事前学習に取り組んだ。実際に西表島に行き、港やスーパーで認知度調査を行ったり、現地の方にデンサー節の継承などについてのお話を伺った。さらに西表島と沖縄本島との認知度の差を調べるために、沖縄大学周辺でも調査を行った。

地域…西表島上原地域 沖縄大学周辺

期間…事前学習（2017年6月中旬ごろ～）

西表島での調査（2017年9月23日～25日）

沖縄大学周辺での調査（2017年11月10日）

IV. 結果

- ・デンサー節について

西表島の上原地区発祥で、八重山地方に広く知られている教訓歌である。1768年に上原村の村長（ゆんちゅ）であった宮良里賢さんによってつくられた。当時の西表島は首里王府の行政改革の影響により、波照間島や黒島からの強制移住で村建が進められていた。

- ・デンサー節の継承について

20年前からデンサー節大会を通して伝承に取り組んでいる。大会では、小学生から一般までの出場者がデンサー節を歌い、表彰を行う。以前は竹富町の各島で運営を受け持っていたが、財政的に厳しくなったため第15回大会を最後に開催されていなかった。しかし、2016年からデンサー節の発祥の地である上原地区の公民館で主催して再び開催する運びとなり、デンサー節を継承していこうと地域全体で取り組んでいる。

- ・認知度調査について

「デンサー節」の認知度調査を西表島の上原地区（港・スーパー・商店など）と沖縄県本島（沖縄大学周辺）で行った。

西表島上原地区での認知度調査では、どの年代も「歌えるし歌詞の意味も知っている」の項目への回答が多く、「知らない」項目への回答はなかった。30代1人、40代1人という結果は観光客からの回答であった。それに比べ沖縄本島で行った認知度調査では、「名前のみ知っている」「知らない」への回答が圧倒的に多かった。

西表島上原地区（港・スーパー）					
	歌えるし歌詞の意味も知っている	歌える	名前のみ知っている	知らない	合計（人）
10代	0	0	0	0	0
20代	4	1	3	0	8
30代	6	2	9	1	18
40代	7	1	1	1	10
50代	2	3	2	0	7
60代	11	1	2	0	14
合計	30	8	17	2	57

沖縄本島（沖縄大学周辺）					
	歌えるし歌詞の意味も知っている	歌える	名前のみ知っている	知らない	合計（人）
10代	0	0	3	0	3
20代	1	1	1 4	1 5	3 1
30代	0	0	1	6	7
40代	0	1	1	1	3
50代	0	2	2	1	5
60代	0	0	3	0	3
合計	1	4	2 4	2 3	5 2

V. 考察、分析

認知度調査の結果からは、西表島上原地区住民の「デンサー節」に対する認知度が、沖縄本島住民の認知度より高いことが分かり、本島住民の認知度がかなり低く、あまり知られていないことが明らかとなった。さらに金星さんからは、「デンサー節」が誕生するまでの歴史やこれまで・これからの継承の方法についてお話を聞き、「デンサー節」の発祥地が上原地区であることが明確になった。

私たちははじめ「デンサー節」の発祥の地が上原地区かどうかと研究を進めていたとき、原曲のデンサー節以外はデンサー節であるということは間違っているのだと捉えていた。しかし金星さんは「デンサー節」が広まり続け、各地でアレンジされた「デンサー節」が誕生していることを「間違っていない。あちこちへ行ってその島で生まれ変わって新しい歌にされるのが八重山の歌の特徴です。」と話していた。私たちがはじめに捉えていた認識は間違いであり、原曲から形を変えていった「デンサー節」も含めすべてが「デンサー節」であることがわかった。

VI. 今後の展望

今回の研究を通し、本島にも独自の「デンサー節」が存在するが本島住民の「デンサー節」に対する認知度が低いことが明らかになった。「デンサー節」は教訓歌であることから継承され続ける必要があると考える。発祥の地である西表島上原地区では「デンサー節大会」が開催され、代々継承され続けている。沖縄本島ではそのような継承活動が行われておらず認知度が低い。そのため今回の研究を通して、「デンサー節」をはじめ、様々な文化を引き継ぎ、次世代へもしっかり伝え続けていく必要があると感じた。

VII. 終わりに

私たちは今回「デンサー節」の発祥地が西表島の上原地区であることを証明するために研究を行った。研究・調査をしていく中で、新しい視点から見た「デンサー節」を知ることができたと感じている。

今回の研究を通して、地域によって変化した「デンサー節」もその地に伝わる教訓歌「デンサー節」であり、新しい場所で生まれ変わっていくのが「デンサー節」の特徴であることが分かった。そしてそれが間違いではないと知ることができた。さらにこれらを学んだことで「デンサー節」はこれから認知度の低い沖縄県本島にも広めていくことが必要であると感じた。それは「デンサー節」が教訓歌であり、教訓歌は世間で大切にされている戒めを、教え諭すための歌であるからだ。この教訓歌を私たちが受け継ぎ、繋ぎ、祖先たちが大切に築きあげてきたものを大切にしていくことが私たちに出来ることであり、やるべきことだと感じた。

「デンサー節」は西表島の上原地区を発祥地とし、沖縄県各地へ広まった。各地で歌われているものは現曲とは異なり、アレンジが加えられているがそれも立派な教訓歌「デンサー節」である。「デンサー節」は、上原地区を発祥地とし、沖縄県各地に広まった。そして広まりアレンジが加えられた「デンサー節」は原曲の生まれ変わりだとしたことが今回の私たちの研究結果である。

VIII. 参考文献、調査協力

石垣金星さん、上原地区の地域の方々、他アンケートにご協力頂いた皆さん

IX. 指導教員コメント

「デンサー節」の概念が変わったことは、研究の成果である。そのことを踏まえて言えば、各地で生まれていった「デンサー節」は、本来の「デンサー節」とどこがどのように変わっていったのか。教訓歌としての教訓の中身に違いがあるのか、あるとすればそこにはどんな意味があるのか、今後の研究課題であると思う。